

10 季節変化によって植物群落はどのように移り変わるだろうか

野外観察では、植物の名前を知ることから一歩進めて生態（生活のしかた）に目をむけたいと思います。では、私たちの身近かにある校庭や空地などでの雑草群落の観察（調べかた）を中心にして、季節による群落の変化を確認してみよう。

一般に植物群落を観察するには、つぎのような手順で調べます。

1. 調査区内にあらわれる植物の名前を調べる。

植物の名前を調べるのに図鑑を使いますが、慣れないと大変です。まず調べたい植物が何に似ているか記憶をたどって、キクに似ていれば、キク科のところを図鑑で見れば、調べる範囲が少しですむわけです。

現地で名前がわからない植物は採集し、符号をつけてもち帰り、後日、自分で調べるなり、専門家に依頼するとよい。

植物名がわかれば、性質（高木・低木・草本・1年生・2年生・多年生など）を調べておくとよいでしょう。

2. 生育している植物の量を調べる

① 方形わく法（カドラート）、一定面積内をくぎって、そこに生えている植物を調べるのに便利で、わくの数は10か所以上、一定間隔におくか、無作意におく。森林のときは $10 \times 10 \text{ m}$ 、草原では $1 \times 1 \text{ m}$ 、コケ植物では $20 \times 20 \text{ cm}$ の「わく」が使われています。

② 個体数（株数）一定調査面積にある植物が何本生えているかを調べる。

個体数が多いほどその群落の優占を示すようになります。

③ 被度 調査区内でそれぞれの植物がどのくらいの面積をおおっているかを示すのに使います。

被度のあらわしかたは、いろいろあるが、スウェーデン学派の方法では、植物が地面をおおう割合を、 $5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot +$ の段階であらわしています。（図-23）森林の場合は階層別に被度を測定する（⑨ページ 図-12参照）

○ 平均被度 = (被度の合計) ÷ (調査わく数)

④ 頻度 各植物の間の群落内におけるひろまりを示すものです。

○ 頻度(%) = (ある植物が出現したわく数) ÷ (調査したわく数) × 100

⑤ 高さ 植物の草の高さを調べ平均の高さを求める。